2011 年 6 月 6 日
農林中央金庫

～東京近郊の小中学生 400 人に聞く～

【第２回】子どもの食生活の意識と実態調査

「親から継ぐ『食』、育てる『食』」（第 1 回 2005 年 2 月調査）との比較レポート

食事を残すと「もったいない」と感じる子どもが 6 年前から倍増（37.8%→75.0%）

おはしを正しく持てる子どもが大幅に増加（58.0%→72.5%）

一緒に食べると楽しい相手は「友だち」人気が上昇（33.8%→68.3%）

Ⅰ．食生活に関する意識と実態

◆ 食事を残すと「もったいない」が 6 年前の調査と比較すると大幅にアップ（37.8%→75.0%）

◆ 一緒に食べると楽しい相手は、1 位「母親」（71.5%）、2 位「友だち」（68.3%）
父親は 4 位（54.8%）、6 年前調査と比べ 2 位「友だち」（33.8%→68.3%）が両親に肉薄

◆ 食事の時にしていること、6 年前と比較して「携帯で話す、メール」（1.8%→5.5%）が約 3 倍

◆ 夕ごはんで好きな料理・おかずは、1 位「ハンバーグ」、2 位「カレー」が不動の人気

Ⅱ．“食育”に関する意識と実態

◆ おはしを正しく持っている子どもが 7 割強（72.5%）で、6 年前（58.0%）より大幅増

◆ “食”への関心、1 位「料理の作り方」、2 位「からだに良い食べ物」、3 位「おいしい食品・店」

◆ 「イケダン（イケてるダンナ）」ブームの反映か、6 年前に比べ父親の“家事参加度”が増加傾向
お父さんの家事参加は、「食品の買い物」と「食事後の食器を運ぶ」が同率トップ（35.8%）

Ⅲ．学校生活における“食”と“農”に関する意識と実態

◆ 学校給食が「好き」な子どもは 7 割強、前回調査と比べ大幅増（55.1%→72.2%）

◆ 好きな給食メニューは、1 位「カレー」、2 位「あげパン」と人気の上位は今も昔も変わらない定番
大躍進したのが 3 位の「キムチチャーハン」、韓国の味覚がもはや給食でも定番メニュー

◆ 学校給食は、1 位「おいしい」（70.2%）、2 位「みんなで食べると楽しい」（61.5%）
「おいしい」が 37.0%→70.2%と大幅アップ、給食がおいしくなったことを証明

◆ “食”で教わったことは、1 位「栄養」（40.8%→69.5%）、2 位「お米の作り方」（42.3%→44.5%）
3 位「食の安全」（22.0%→43.5%）、4 位「料理の作り方」（25.3%→40.3%）と
前回から大幅増

◆ 4 人に 3 人強の子どもが「米」や「野菜」を育てた経験あり
お米や野菜を育てたことが“ない”子どものうち、ほぼ半数（45.2%）が「育ててみたい」

◆ お米や野菜を育てた感想は、1 位「たいへん」（60.3%）、2 位「楽しい」（57.7%）

JAバンク（JA・信連・農林中金）

◇はじめに◇

農林中央金庫では、東京近郊に住む小・中学生を対象に食事の実態や“食”にかかわる意識と実態を調べ、食育などを通して世代間の継承がどうなされているかを探ることを目的に、「第２回　子どもの食生活の意識と実態調査（第２回 親から継ぐ『食』、育てる『食』調査）」を実施しました。

近年、食の安全・安心への関心が高まりを反映し、食べ物に関する教育、“食育”も注目されています。そこで、実際に教育を受けている子どもたちが、食についてどのように感じているのかを調査しました。レポート作成にあたりましては、6 年前に今回とほぼ同じ条件で実施した調査と比較しながら、この間の子どもたちの意識の変化なども探っています。

本調査は、2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災の前に実施されましたが、福島第 1 原子力発電所が被災した影響で、食品の放射能汚染問題も大きな社会問題となっています。被災後の人々の意識の変化については、改めて調査する必要があると考えますが、今後のそうした調査との比較対象・リファレンスとしても、震災直前の首都圏の小中学生の意識調査は貴重な資料になると考えております。

◇調査結果まとめ◇

本調査は、首都圏の小学４年生～中学３年生の男女計 400 名（小学生男女各 100 名、中学生男女各 100 名）を対象に実施しました（調査期間は 2011 年 3 月 3 日～3 月 10 日）。約 6 年前の 2004 年 11 月に実施した第 1 回「親から継ぐ『食』、育てる『食』」（2005 年発表）の定点継続調査でもありますので、前回調査と比較しながら、小中学生の食に対する意識と実態の変遷も探っていきます。

◆

調査の結果、まず明らかになったのは**子どもたちの食意識の向上**です。食事を残すと「もったいない」（75.0%）、「作ってくれた人に悪い」（63.5%）と感じる子どもの割合が高く、前回調査と比較すると、**残すと「もったいない」（37.8%→75.0%）と感じる割合が倍増**しています。また、**「おはし」を正しく持っている子どもは 7 割強（72.5%）で、6 年前（58.0%）より大幅に増、おかずとご飯を交互に食べる子どもも 66.3%→78.0%と増えています。**こうした結果から、**ここ数年の食育教育が浸透**していることが窺えます。一方で、6 年前と比較して食事の時に**「携帯電話で話す、メールをする」（1.8%→5.5%）が約 3 倍**に増え、親に「食事中に電話やメールをしない」よう注意される子どもは中学生女子では 6 割弱（59.0%）と過半数を超えています。

食事を「誰と一緒に食べるときが楽しい？」では「両親」は（母親 83.3→71.5%、父親 76.8%→54.8%）と減少傾向なのに対し、**6 年前に比べて「友だち」が急上昇（33.8%→68.3%）**しており、かなりはっきりした変化が見られます。お父さんの家事参加度は、「食品の買い物」と「食事後の食器を運ぶ」が同率首位（35.8%）になるなど、「イケダン（イケてるダンナ）」ブームの反映か**父親の“家事参加度”は増加傾向**にあるようです。

学校での食生活では、**学校給食が「好き」な子どもは 7 割強（72.2%）**を占めています。**6 年前と比べて「おいしい」（37.0%→70.2%）が急増**、「給食がおいしくなった」という声を裏付けています。給食の好きなメニューは、**1 位「カレー」、2 位「あげパン」**と定番が並びますが、**大躍進したのが 3 位の「キムチチャーハン」**で韓国の味覚が給食でも人気メニューになりました。嫌いな給食メニューは「特になし」（73 件）が最多で、何でも食べる子どもが比較的多い印象です。

“食”について教わったことは、**1 位「栄養」（69.5%）、2 位「お米の作り方」（44.5%）、3 位「食の安全」（43.5%）**でした。また、**4 人に 3 人強の子どもが「米」や「野菜」を育てた経験**を持っており、学校でお米や野菜を育てたことが“ない”子どもたちのうちほぼ半数（45.2%）が育ててみたいと希望しています。

以下は，今回調査内容のダイジェストです。詳細については当金庫のホームページ(http://www.nochubank.or.jp/contribution/research.html)に掲載の調査報告書をご参照下さい。

Ⅰ．食生活に関する意識と実態

１．家で食事の時にしていることは？

◆　「家族と話をする」(86.0%)が 9 割近くに上る
「テレビを見る」(62.5%→77.8%)もより高率に
◆　6 年前と比較すると「携帯電話で話す、メールをする」(1.8%→5.5%)が約 3 倍に
中学生では「携帯電話で話す、メールをする」が 1 割(10.0%)に上る

子どもが「家で食事の時にしていること」は、**「家族と話をする」が 9 割近く(86.0%)**と圧倒的に多く、食事時は家族団らんの時間となっていることが分かります。**2 位は「テレビを見る」(77.8%)**で、いずれも、**6 年前の調査に比べると割合は増加(80.3%→86.0%、62.5%→77.8%)**しています。

少数派としては、「だまって食べているだけ」(5.8%)、**「携帯電話で話す、メールをする」(5.5%)**、「音楽をきく」(5.0%)などの子どももみられます。**中学生では「メールをする・携帯電話で話す」が 1 割(10.0%)**に達しています。

◆前回調査比較:「家族と話をする」(80.3%→86.0%)、「テレビを見る」(62.5%→77.8%)

6 年前の調査と比較すると、「家族と話をする」(80.3%→86.0%)、「テレビを見る」(62.5%→77.8%)ともに増加傾向です。なお、少数派ではありますが「携帯電話で話す、メールをする」は 1.8%→5.5%と約 3 倍に増えています。

２．食事の時、家族と何を話す？

◆　1 位「学校で起きたできごと」、2 位「友だちのこと」、3 位「テレビ番組やタレントのこと」
前回調査比較では順位に大きな変動はないが、「友だちのこと」が 40.3%→59.5%と大幅アップ
◆　小学生は「学校生活」が話題の中心、中学生になると「社会」への関心が高まる傾向
中学生になるほど「テレビ番組やタレント」「クラブ活動」「ニュース」などが家族で話題になる率が高い

子どもが「食事の時に家族と話す内容」を聞いたところ、**1 位「学校で起きたできごと」(74.5%)**が最も多く、**2 位「友だちのこと」(59.5%)**、**3 位「テレビ番組やタレントのこと」(49.5%)**と続き、「クラブ活動」(29.0%)、「スポーツ」(21.3%)、「ニュース」(21.0%)が続いています。

小学生の話題は中学生より「学校で起きたできごと」「友だちのこと」「スポーツ」が多く、中学生になると増えるのは「テレビ番組やタレントのこと」「クラブ活動」「ニュース」という傾向で、やはり中学生になると学校だけでなく社会への関心が高くなるようです。

◆前回調査比較:「友だちのこと」が 40.3%→59.5%と大きくアップ

6 年前の調査と比較すると、いずれも「学校で起きたできごと」(74.5%→74.5%)が最多でしたが、「友だちのこと」が 40.3%→59.5%と大きくアップしました。

３．誰と一緒に食べるときが楽しい？

◆　一緒に食べると楽しい相手、1 位「母親」(71.5%)、2 位「友だち」(68.3%)、3 位「兄弟・姉妹」(67.3%)

◆　6 年前の調査と比べると、2 位の「友だち」が人気急上昇(33.8%→68.3%)で両親に肉薄
一方「両親」は男女共(母親 83.3→71.5%、父親 76.8%→54.8%)に減少傾向のため、その差が急接近

誰と一緒に食べるときが楽しいか聞いてみたところ、**1 位「母親」(71.5%)、2 位「友だち」(68.3%)、3 位 "兄弟・姉妹"(67.3%)**となっています。以下「**父親**」(54.8%)、"祖父・祖母"(29.5%)、「親せきの人」(10.8%)が続きます。

小学生では「母親」(80.5%)が 1 位ですが、**中学生では「友だち」(70.0%)**にトップが逆転します。中学生くらいで、友達との時間が増えるとともに、子どもが親離れしていくことが分かります。

◆前回調査比較:「友だち」が 33.8%→68.3%と大幅に増加、一方「両親」は減少傾向に

6 年前の調査と比較すると、「友だち」が 33.8%→68.3%と大幅に増えました。それに対して、「母親」(83.3→71.5%)と「父親」(76.8%→54.8%)は共に減少しており、かなり大きな傾向的変化を見せています。背景に何らかの社会的風潮、経済動向、文化・流行などの大きな変化があり、その影響が表出したものである可能性もありそうです。

４．夕ごはんで好きな料理・おかずは何？

◆　1 位「ハンバーグ」(64 件)、2 位「カレー」(62 件)が不動の人気
男子は「カレー」が 1 位、女子は「ハンバーグ」が 1 位、傾向は 6 年前も今も変わらず

家の夕ごはんで好きな料理・おかずは、**1位「ハンバーグ」(64 件)、2 位「カレー」(62 件)、3 位「から揚げ」(45 件)**でした。以下「ギョウザ」「焼肉」(各 16 件)、「シチュー」(13 件)が続いています。

男子は1位「カレー」(42 件)、女子の 1 位は「ハンバーグ」(36 件)で、やや男女差が見られます。全般的に今の子どもには洋食の人気が高いようです。

◆前回調査比較:ハンバーグとカレーの順位は変わらず圧倒的人気

6 年前の調査と比較すると、ハンバーグとカレーの順位は変わらず圧倒的人気で、いつの時代も定番メニューであることがわかります。

５．おかずとご飯は交互に食べる？

◆　「おかずとご飯を交互に食べる」(78.0%)という子どもが大多数
前回調査比較:「おかずとご飯を交互に食べる」が 66.3%→78.0%と増加

ご飯とおかずの食べ方については、**1 位が「おかずとご飯を交互に食べる」(78.0%)**で、マナー通りのオーソドックスな食べ方が圧倒的に多くなっています。その他の食べ方としては、「おかずだけ先に食べる」(14.3%)、「おかずを一種類ずつ食べる」(13.3%)、「おかずから嫌いなものを選り分ける」(7.3%)、「ごはんだけ先に食べる」(7.0%)などのバリエーションがみられます。

小学生(71.5%)より中学生(84.5%)のほうが交互に食べる割合が増え、「おかずだけ先に食べる」「おかずを一種類ずつ食べる」などの変則的な食べ方は小学生に多く、特に「おかずだけ先に食べる」のは小学生(20.5%)が中学生(8.0%)の 2 倍を超えます。

◆前回調査比較:マナー通り食べている割合が 66.3%→78.0%と増加

6 年前の調査と比較すると、「おかずとご飯を交互に食べる」と、マナー通り食べている割合が 66.3%→78.0%と 10 ポイント以上増えています。

６．食事を残すことがある？　残してしまったらどう思う？

◆　「いつも残す」(1.3%)、「時々残す」(41.3%)など半数弱(42.5%)が“残すことがある”
前回調査比較:“残すことがある”割合が 48.3%→42.5%と減少
◆　残すと「もったいない」(75.0%)、「作ってくれた人に悪い」(63.5%)と感じる子どもが大多数
前回調査比較:食事を残すことについて、「もったいない」(37.8%→75.0%)が大幅アップ

1)食事を残すことがある？

食事を**「いつも残す」(1.3%)**子どもはほとんどいませんが、**「時々残す」(41.3%)**子どもはかなり多く、合わせて半数弱(42.5%)が“残すことがある”と答えています。

男子(37.5%)より**女子(47.5%)**のほうが、**中学生(39.0%)**より**小学生(46.0%)**のほうが“残すことがある”が多く、特に**小学生の女子では半数以上(53.0%)**に達しています。

◆前回調査比較:“残すことがある”割合が 48.3%→42.5%と減少

6 年前の調査と比較すると、“残すことがある”割合が 48.3%→42.5%と減少しました。“ものを大事にする”という意識が浸透した結果かもしれません。

2)残してしまったらどう思う？

食事を残すことについて、**「もったいない」(75.0%)**、**「作ってくれた人に悪い」(63.5%)**と感じる子どもが多い反面「食べきれない時は仕方がない」(27.5%)、「嫌いなものの時は仕方がない」(12.8%)などの意見もみられます。「特に何も感じない」(2.5%)という子どもはごく少数派です。

◆前回調査比較:食事を残すことについて、「もったいない」(37.8%→75.0%)が大幅アップ

6 年前の調査と比較すると、「もったいない」(37.8%→75.0%)、「作ってくれた人に悪い」(44.3%→63.5%)が大幅にアップしました。一方、「食べきれない時は仕方がない」(34.3%→27.5%)、「嫌いなものの時は仕方がない」(20.3%→12.8%)など“仕方がない”などは大幅ダウンという傾向です。

Ⅱ．“食育”に関する意識と実態

１．家で食べ物や食事について守るように言われているのはどんなこと？

◆　1 位「食卓に肘をつかない」は 6 年前の 3 位（43.0%）から 1 位（72.0%）に大幅増
2 位「好き嫌いをしない」（66.3%）、3 位「食べ物を粗末にしない」（60.8%）
◆　「食事中に電話やメールをしない」（34.0%）は、男子（23.5%）より女子（44.5%）に多い
中学生の女子では 6 割弱（59.0%）に達し、過半数を大きく超えている

食べ物や食事について、家で“しつけ面”から守るように言われていることは、**「食卓に肘をつかない」（72.0%）**が最も多く、次いで**「好き嫌いをしない」（66.3%）**、**「食べ物を粗末にしない」（60.8%）**、**「いただきます、ごちそうさま、と言う」（59.5%）**の順です。過半数を超えたのは、この 4 つでした。それに対し「特にない」（3.5%）はきわめて少数派であり、大半の子ども（96.5%）が食事のマナーについていろいろと注意されています。

前回との比較では、上位の項目の多くで数値がアップする傾向が見られ、**「みんなと一緒に食べ始める」（10.8%→19.5%）**なども倍増しています。

「食事中に電話やメールをしない」は、男子（23.5%）より女子（44.5%）のほうが明らかに多く、また**小学生（20.5%）より中学生（47.5%）になると倍以上に増えています**。こうした傾向から中学生の女子では特に多くなり、6 割弱（59.0%）に達しています。

◆前回調査比較：「食卓に肘をつかない」（43.0%→72.0%）が前回調査 3 位からトップへ躍進

6 年前の調査と比較すると、「食卓に肘をつかない」が 43.0%→72.0%と大幅に増え、6 年前の 3 位からトップになっています。また、「好き嫌いをしない」（51.3%→66.3%）、「食べ物を粗末にしない」（58.3%→60.8%）、「いただきます、ごちそうさま、と言う」（40.5%→59.5%）など、今回上位の項目はいずれも比率がアップしています。「みんなと一緒に食べ始める」（10.8%→19.5%）も増加しているなど、食事は家族そろって、という意識が高まっているようです。

２．『おはし』を正しく持っている？

◆　おはしを正しく持っている子どもは 7 割強（72.5%）、6 年前（58.0%）より大幅に増える
前回調査比較：6 年前（男子 49.0%、女子 67.0%）と比べ、男子（75.0%）が躍進して女子（70.0%）を逆転

『おはし』を「正しく持っている」子どもは、7 割強（72.5%）と大多数を占めます。今回の調査では、**男子（75.0%）のほうが女子（70.0%）より多く**、前回（男子 49.0%、女子 67.0%）とは逆転現象を示しています。

◆前回調査比較：おはしを「正しく持っている」割合が 58.0%→72.5%へ大幅アップ

6 年前の調査と比較すると、「正しく持っている」割合は 58.0%→72.5%と、14 ポイントほど高くなっています。特に男子（49.0%→75.0%）の急増が目立ち、女子（女子 67.0%→70.0%）を逆転しました。

３．食べ物や食事について、行ってきたことは？

◆　1 位「食器をならべる、料理を運ぶ」(67.0%)、2 位「食事後の食器を運ぶ」(61.8%)
3 位以下も、「食事の支度」(49.0%)、「食品の買い物」(38.0%)、「食器を洗う」(29.5%)などが多い
前回調査比較：上位 3 項目の順位は変わらないが比率は軒並みアップし、手伝いをする子どもが増加

食べ物や食事について、これまで行ってきたことは、**1 位「食器をならべる、料理を運ぶ」(67.0%)、2 位「食事後の食器を運ぶ」(61.8%)、3 位「食事の支度」(49.0%)**で、次いで「食品の買い物」(38.0%)、「食器を洗う」(29.5%)など、“食卓(食事)まわり”が上位です。「お腹を十分にすかせる」(21.8%)、「野菜やくだものを育てる」(18.5%)、「田植え、稲かり」(13.8%)、「いもや竹の子を掘る」(12.5%)、「魚つり」(10.8%)なども挙げられています。

全般的に男子より女子のほうが高率であり、女子のほうが子どものころから食べ物や食事についてはさまざまな経験をしているようです。

◆前回調査比較：上位 3 項目とも比率がアップ

6 年前の調査と比較すると、トップ 3 は同じで、「食器をならべる、料理を運ぶ」(57.8%→67.0%)、「食事後の食器を運ぶ」(49.5%→61.8%)、「食事の支度」(24.8%→49.0%)など、全項目で比率がアップしています。

４．『食事の支度』でしていることは？

◆　1 位「お米をとぐ」、2 位「野菜などの皮をむく、切る」、3 位「ご飯を炊く」
あらゆる項目で女子のほうが男子より多く、女子のほうが食事の支度を手伝っている傾向は明らか

1)『食事の支度』でしていることは？

“食事の支度”をする子ども(196 名)に、どんなことをしているか聞いてみたところ、**「お米をとぐ」(71.4%)**が最も多く、以下**「野菜などの皮をむく、切る」(53.1%)、「ご飯を炊く」(46.9%)、「料理を作る」(43.9%)、「野菜などを洗う」(43.9%)**が続いています。

全ての項目で男子より女子のほうが高率であり、女子のほうがあらゆる面において食事の支度を手伝っています。

2)どんな料理を作っている？

どんな料理を作っているのかをみると、**1 位「カレー」(34 件)**が最も多く、**2 位「味噌汁」(13 件)、3 位「チャーハン」(11 件)**と続き、以下「卵焼き」(8 件)、「ハンバーグ」「シチュー」(各7件)の順です。

男子は「カレー」「味噌汁」「チャーハン」「卵焼き」とバラついていますが、女子では「カレー」(30 件)が突出しています。

5．“食”について、知りたいと思っていること・関心があることは？

◆　1 位「料理の作り方」、2 位「からだに良い食べ物」、3 位「おいしい食品・店」
「料理の作り方」（71.8％）が圧倒的に多く、2 位「からだに良い食べ物」（35.8％）以下を大きく引き離す
6 年前もトップ 3 の顔ぶれは変わらないが、1 位の「料理の作り方」が 32.8％→71.8％と倍増しました

“食”について、知りたいことや、関心をもっていることは、「特にない」（11.3％）という子どもが1割強いますが、残りの **9 割弱（88.8％）は“何らかに関心がある”と答えています。**

内容では、**「料理の作り方」（71.8％）が圧倒的に多く、以下「からだに良い食べ物」（35.8％）、「おいしい食品・店」（35.5％）、「栄養」（29.8％）、「安全性」（23.3％）、「正しい食べ方、マナー」（21.5％）**と続いています。1 位の「料理の作り方」の割合は女子（83.0％）のほうが男子（60.5％）より 20 ポイント以上高くなっています。全般的に女子のほうが、“食”について関心があると言えるでしょう。また、小学生より中学生のほうが関心は高い傾向です。

◆前回調査比較：「料理の作り方」が 32.8％→71.8％と大幅に増え、料理への関心度がアップ

6 年前の調査と比較すると、6 年前も同じ項目がトップ 3 にあげられています。1 位の「料理の作り方」は 32.8％→71.8％と大きく増えており、6 年前に比べて料理への関心・興味度がアップしたようです。続く「からだに良い食べ物」（28.5％→35.8％）、「おいしい食品・店」（27.8％→35.5％）も増えています。

6．お父さんは食べ物や食事のことで何かしている？

◆　お父さんがすること1位は「食品の買い物」と「食事後の食器を運ぶ」が同率（35.8％）で並ぶ
「何もしない」（26.1％）は少数派、父親が食べ物や食事のことをするのは当たり前のこと（73.9％）
◆　「イケダン（イケてるダンナ）」ブームを反映し、父親の“家事参加度”が増加傾向
前回調査比較：「食品の買い物」（19.7％→35.8％）、「食事後の食器を運ぶ」（16.4％→35.8％）と約倍増

食べ物や食事について、父親がしていることは、「何もしない」と答えた子どもは 3 割弱（26.1％）、**7 割強（73.9％）のお父さんは子どもに何らかのことをしていると認められています。**

内容は、**「食品の買い物」と「食事後の食器を運ぶ」（各 35.8％）が同率トップ、以下「料理を作る」（35.5％）、「食器を洗う」（32.1％）、「なべ物やプレート料理の係」（24.0％）、「食器をならべる、料理を運ぶ」（23.5％）**という順でした。

父親がしていることの数から“家事参加度”をみると、3 項目以上している「高い」にランクされる父親は 3 人に 1 人（33.9％）の割合となっています。

6 年前の調査と比較しても、**トップ 3 の「食品の買い物」（19.7％→35.8％）、「食事後の食器を運ぶ」（16.4％→35.8％）、「料理を作る」（33.6％→35.5％）が急増**、「イケダン（イケてるダンナ）」が流行語になっていることに象徴されるように、仕事をバリバリとこなしながらも家族を大切にして、奥さんを手助けすることに躊躇しない男性が増えているようです。

◆前回調査比較：“家事参加度”が「高い」父親が 17.7％→33.9％と、大幅にアップ

6 年前の調査と比較すると、「何もしない」という割合が 33.3％→26.1％にダウンしており、子どもがみた父親の“家事参加度”はアップしているようです。今回トップ 3 の「食品の買い物」（19.7％→35.8％）、「食事後の食器を運ぶ」（16.4％→35.8％）、「料理を作る」（33.6％→35.5％）はいずれも比率がアップしています。また、“家事参加度”が「高い」父親が 17.7％→33.9％と、大幅に増えています。

Ⅲ． 学校生活における“食”と“農”に関する意識と実態

１．学校給食は好き？

◆　7 割強（72.2%）の子どもは学校給食が「好き」、男子（74.1%、女子 70.4%）は特に大好き
前回調査比較：給食が「好き」が 55.1%→72.2%へと大幅にアップ

『学校給食』の好き嫌いでは、**「好き」が 7 割（72.2%）**を超えており、子どもたちにとって学校生活の楽しみとして給食が位置づけられていることが分かります。「好き」は女子（70.4%）よりの男子（74.1%）ほうがやや多く、小学生（78.0%）のほうが中学生（60.6%）よりかなり多くなっています。

◆前回調査比較：「給食がある」増加（69.0%→74.8%）、「好き」も大幅アップ（55.1%→72.2%）

6 年前の調査と比較すると、「給食がある」は 69.0%→74.8%と増え、給食の好き嫌いも「好き」が 55.1%→72.2%と大幅にアップしています。「最近の給食はおいしくなった」と言われていますが、こうした影響もあるかもしれません。

２．好きなメニューは何？嫌いなメニューは何？

◆　“好きな料理”1 位「カレー」、2 位「あげパン」と人気の上位は今も昔も変わらない定番
大躍進したのが 3 位の「キムチチャーハン」、韓国の味覚がもはや給食でも定番メニュー
◆　“嫌いな料理”は「特になし」（73 件）が最多で、何でも食べる子どもが比較的多い印象

給食のメニューで好きな料理は、**1 位「カレー」（66 件）が最も多く、2 位「あげパン」（42 件）、3 位「キムチチャーハン」（17 件）**で、以下「ラーメン」（16 件）、「うどん」（8 件）と続いています。カレー、あげパンは定番ですが、キムチチャーハンは初のランクインです。男子は「カレー」（38 件）、「あげパン」（19 件）、「ラーメン」（13 件）がベスト 3、女子も「カレー」（28 件）と「あげパン」（23 件）は同じく人気です。

“嫌いな料理”は、「特になし」（73 件）が多いですが、料理としては「豆が入っている料理」（19 件）が最も多く、以下「ゴーヤチャンプル」「魚料理」（各 11 件）、「野菜サラダ」（9 件）が続きます。

３．学校給食について、どのように感じている？

◆　1 位「おいしい」（70.2%）、2 位「みんなで食べると楽しい」（61.5%）
前回調査比較：6 年前に比べて、「おいしい」が 37.0%→70.2%と大幅アップ

学校給食について、どのように感じているか聞いてみたところ、**1 位「おいしい」（70.2%）**が最も多く、**2 位「みんなで食べると楽しい」（61.5%）、3 位「家で食べないメニューを食べることができる」（42.1%）**と続きます。反面、「お弁当のほうがいい」（17.7%）、「量が少ない」（11.7%）、「量が多い」（10.7%）、「おいしくない」（8.0%）と感じている子どももいます。

前回調査比較：「おいしい」が 37.0%→70.2%と大幅アップ、給食がおいしくなったことを証明

6 年前と比べて「おいしい」（37.0%→70.2%）が急増、やはり「給食がおいしくなった」という声を裏付けています。

４．給食に地元（自分が住んでいる地域）の食べ物や材料が出てくる？

◆　「わからない」(54.8%)という子どもが過半数を占めたものの、「出る」も 4 割(39.5%)
地元の材料は、「ダイコン」(31 件)、「小松菜」(12 件)、「はま菜」(10 件)がトップ 3
前回調査比較：6 年前に比べると「出る」が 28.6%→39.5%とかなり増えている

給食に地元（自分が住んでいる地域）の食べ物や材料が出てくるか聞いてみたところ、「わからない」(54.8%)という子どもが過半数を占めていますが、**4 割(39.5%)が「出る」と答えています。**

給食に出る地元の食材は、**「ダイコン」(31 件)が最も多く、以下「小松菜」(12 件)、「はま菜」(10 件)、「ほうれん草」「米」(各 9 件)**が続いています。

「出る」の割合は、小学校が 46.5%、中学校が 25.3%で、小学校のほうがかなり多い傾向です。

◆前回調査比較：「出る」割合が 28.6%→39.5%と増加

6 年前の調査と比較すると、「出る」割合が 28.6%→39.5%と増えており、地産地消が浸透していることがわかります。

５．“食”について教わったことは？

◆　1 位「栄養」(69.5%)、2 位「お米の作り方」(44.5%)、3 位「食の安全」(43.5%)
前回調査比較：「栄養」(40.8%→69.5%)、「食の安全」(22.0%→43.5%)などで比率が大きく増加
◆　「特に教わっていない」(4.8%)は少数派で、“教わった”が大多数(95.3%)を占める

学校で、“食”についてどんなことを教わったか聞いてみたところ、「特に教わっていない」(4.8%)という子どもはきわめて少なく、大多数の子どもは**“教わった”(95.3%)**と答えています。

内容は、**「栄養」(69.5%)が最も多く、以下「お米の作り方」(44.5%)、「食の安全」(43.5%)、「料理の作り方」(40.3%)、「食事を食べる順や三角食べ」(40.0%)、「野菜の作り方」(34.5%)、「食事のときの姿勢」(33.8%)**が続いています。

◆前回調査比較：「栄養」(40.8%→69.5%)、「食の安全」(22.0%→43.5%)などが大幅増

6 年前の調査と比較して、「栄養」(40.8%→69.5%)、「お米の作り方」(42.3%→44.5%)、「食の安全」(22.0%→43.5%)、「料理の作り方」(25.3%→40.3%)など、全体に比率がアップする傾向が顕著です。学校教育において“食”とのかかわりを教える機会が増えてきていることも影響があるかもしれません。

６．お米や野菜を育てた経験は？

◆　4 人に 3 人強の子どもが「米」や「野菜」を育てた経験を持っている
「米」(215 件)、「トマト」(72 件)、「オクラ」(64 件)、「ゴーヤ」(55 件)、「ミニトマト」(47 件)など
前回調査比較：6 年前に比べ、学校でお米や野菜を育てたことが「ある」は 62.3%→76.8%へとアップ
◆　学校でお米や野菜を育てたことが“ない”子どものうち、ほぼ半数(45.2%)が育ててみたい

1)お米や野菜を育てた経験は？

学校でお米や野菜を育てたことが「ある」(76.8%)という子どもが **4 人に 3 人強の割合**となっています。お米や野菜を育てることを通じた“食農教育”も盛んのようです。

◆前回調査比較：学校でお米や野菜を育てたことが「ある」という割合が 62.3%→76.8%とアップ
6 年前の調査と比較すると、育てたことが「ある」が 62.3%→76.8%と増えており、“食農教育”の成果が窺えます。

2)育てたものは？

学校で育てたものは **1 位「米」(215 件)**が圧倒的に多く、**2 位「トマト」(72 件)**、**3 位「オクラ」(64 件)**、**以下「ゴーヤ」(55 件)**、**「ミニトマト」(47 件)**、**「サツマイモ」(43 件)**、**「ナス」(42 件)**が続いています。

3)お米や野菜を育ててみたい？

学校でお米や野菜を育てた経験が“ない”子ども(93 名)に、育ててみたいと思うか聞いてみたところ、**「思う」(45.2%)**という子どもがほぼ半数の割合となっています。「思う」割合は男子(41.7%)より女子(48.9%)のほうが高めです。小学生では過半数(65.0%)を占めていますが、中学生は 4 割(39.7%)にとどまっています。

◆前回調査比較：育ててみたいと「思う」割合が 43.0%→45.2%とあまり変化なし
6 年前の調査と比較すると、育ててみたいと「思う」割合が 43.0%→45.2%とあまり変わりません。

７．お米や野菜を育てた感想は？

◆　1 位「たいへん」(60.3%)、2 位「楽しい」(57.7%)、3 位「むずかしい」(43.0%)
「たいへん」(男子 56.6%、女子 63.9%)も、「楽しい」(男子 48.7%、女子 66.5%)も女子のほうが高率

お米や野菜を育ててみて、**1 位「たいへん」(60.3%)**、**2 位「楽しい」(57.7%)**、**3 位「むずかしい」(43.0%)**と続きます。農業体験によって、農作物を作ることのたいへんさと楽しさという貴重な体験をし、収穫したものを食べることによって、健康の大切さや食べる楽しさを学んでいるようです。少数ですが「つまらない」(9.8%)、「苦しい」(2.6%)など、否定的な感想も挙げられています。

「たいへん」という割合は男子(56.6%)より女子(63.9%)のほうが高めですが、「楽しい」も男子(48.7%)より女子(66.5%)のほうが高くなっています。

以　上

＜参考：過去の調査資料一覧＞

○ 2004 年 2 月 『世代をつなぐ食』その実態と意識
　対象：首都圏の子どもを持つ 30～50 代の主婦 400 名

○ 2005 年 2 月　親から継ぐ『食』、育てる『食』
　対象：首都圏の小学校 4 年生～中学校 3 年生の男女 400 名

○ 2006 年 3 月　現代高校生の食生活、家族で育む『食』
　対象：首都圏の高校生の男女 400 名

○ 2007 年 3 月　現代の父親の食生活、家族で育む『食』
　対象：首都圏の 30 代、40 代の父親 400 名

○ 2008 年 3 月　現代の独身 20 代の食生活・食の安全への意識
　対象：首都圏の 20 代の独身男女 400 名

○ 2010 年 4 月　第 2 回『世代をつなぐ食』その実態と意識
　対象：首都圏の子どもを持つ 30～50 代の主婦 400 名

＜本件に関するご照会先＞

農林中央金庫

広報部：岡元、長谷川

〒100-8420 東京都千代田区有楽町１－１３－２
DN タワー21（第一・農中ビル）
TEL. 03-5222-2017／FAX. 03-3213-5276